

農場通信 2025年 4月号

2025/3/25

トヨタネ研究農場の「今」をお知らせ！ 圃場の写真と、環境データ・管理方法も合わせてご覧ください！


① 圃場 ハウス ② 試験内容

③ 開始日 ④ 終了予定

① 第4 A ② ココバッグ栽培展示 バッグ比較試験 ③ 2024/9/9 ④ 2025/7月末

品目	圃場写真①	圃場写真②
栽培中 栽培準備中 今月最終		
直近の環境データ・管理方法(晴天日) ※特に表記のないものは 設定と実測の温度を示しています		今月の状況 と 今後の管理

大玉トマト




【3/24 環境状況】
— 気温 — 飽差
気温・飽差 (°C・g/m³)
時刻

ココバッグ栽培の展示ハウスになります。通常タイプのココバッグと、ココバッグ「ミニ」の比較試験を行います。品種は桃太郎ホープ(台木:アシスト) 9/9定植。
日中の気温が高くなり、晴れた日は日射も非常に強いので、遮光カーテンを適宜使用しています。給液量は日射量に合わせてどんどん増やしていますが、曇雨天の日は気温がまだ上がらないので、晴と雨の日の管理の切り替えを適切に行うことが重要です。萎れも無く、草勢は強めを維持しています。

① 第4 B ② ミニトマト品種比較試験 ③ 2024/7/29 ④ 2025/6月

① 第4 C ② 大玉トマト品種比較試験 ③ 2024/7/29 ④ 2025/6月


ミニトマト



【3/19 環境状況】
— 温度 — 冷却設定値 — 暖房設定値 — 飽差
温度・飽差 (°C・g/m³)
時刻

ミニトマト20品種の比較試験を行っています。日中24℃前後、夜間12℃前後で株あたり2000ml、給液ECは2.2で灌水管理。
一部の品種で裂果や裂皮が増えてきました。草勢が弱くなっているため夜間の温度を1度下げで管理。
コナジラミが増えてきたので、消毒やカスミカメの放飼を徹底しています。

大玉トマト




【3/19 環境状況】
— 温度 — 冷却設定値 — 暖房設定値 — 飽差
温度・飽差 (°C・g/m³)
時刻

日中25℃前後、EC2.3 株あたり2000mlで灌水しています。19-22段目が開花しています。
3月に入り、コナジラミの姿を見たため、気門封鎖剤により消毒を行いました。日中の日射量も増えているため、遮光も行っています。

① 第4 D ② バリエーイトマト品種比較試験 ③ 2024/7/25 ④ 2025/4月

① 第4 E ② イチゴ栽培試験 ③ 2024/7/23 ④ 2025/6月


バリエーイトマト



【3/19 環境状況】
— 気温 — 飽差
気温・飽差 (°C・g/m³)
時刻

3月5日に摘芯を行いました。作を通じて、タバコカスミカメにより、コナジラミは抑えられてはいましたが、TY耐性なしの品種で一部黄化葉巻病が発病したため、あくまでタバコカスミカメはコナジラミの防除対策の1つにしかならないことを実感しました。
当ハウスは、4月15日までの栽培となります。

イチゴ




【3/19 環境状況】
— 気温 — 飽差
気温・飽差 (°C・g/m³)
時刻

本葉5~6枚、株300cc給液、給液EC0.9で管理。ハウス内が暑くならないように、換気や遮光を実施。
摘果、摘花は果房あたり7果になるようにしています。夜間10度以上になってきたため早朝加温停止。葉の黄化やハダニの対策のため、葉面散布を行っています。

① 第4 J ② ココバッグ養液栽培試験 品種比較試験 ③ 2024/10/2 ④ 2025/4月末

① 第4 I ② 高糖度ミニトマト品種比較試験 ③ 2024/8/30 ④ 2025/7/1


キュウリ



【3/24 環境状況】
— 気温 — 飽差
気温・飽差 (°C・g/m³)
時刻

10/2に定植しました。今作はココバッグを使った養液栽培に適する品種比較試験ということで、穂木品種8種類・台木品種4種類を栽培します。
今作は4月中旬までで終了し、すぐに2作目を定植する予定です。気温・日射ともに一気に増加し、調子の良い品種は収量が爆発的に増加してきています。一方で芽先の詰まってしまった品種もいくつかあり、品種差が大きく出ています。ツルの伸びもかなり早くなってきてので、ツル下ろしが忙しくなる時期です。

高糖度ミニトマト



【3/24 環境状況】
— 気温 — 飽差
気温・飽差 (°C・g/m³)
時刻

ミニトマトの高糖度栽培での品種比較試験を行います。培地はココバッグ、肥料はオリジナルの高糖度用単肥処方を使用します。
冬季まではEC5.0での管理でしたが、しっかりストレスのかかった樹姿になっているため、春に向けて3.5程度まで徐々にECを下げています。給液量は排液が出るギリギリで調整し、晴天日の排液率は5%前後、曇雨天時はゼロにしています。ECは下げましたが、給液量でストレスをかけているので糖度はまだ比較的高い状態を維持していますが、品種差が大きくなっています。





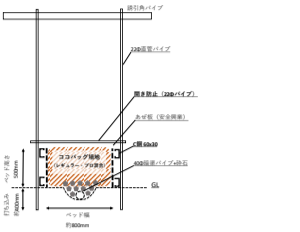
豊かさ実る、タネを。
トヨタネ株式会社

研究農場 TEL (0532) 41-2007
愛知県豊橋市東高田町371 FAX(0532)41-2015
URL <https://www.toyotane.co.jp/>
E-mail info@toyotane.co.jp




① 第6 ② キャベツ品種比較試験 ③ 2024/8月～ ④ 2024/11月～

キャベツ		
<p>【作型一覧】 冬系1作目 7月26日播種 8月18日定植 冬系2作目 8月1日播種 8月27日定植 冬系3作目 8月8日播種 9月6日定植 冬系4作目 8月20日播種 9月14日定植 冬系5作目 8月23日播種 9月17日定植 春系1作目 8月23日播種 9月17日定植</p>		<p>冬系5作型 春系1作型（詳細は左記のとおり） 冬系1～4、春系1 まで調査終了しました。 今作は特に冬系1～3までが高温による初期生育不良で出来が悪い状況でした。次作はこの点を改善できる方法を検討します（BS資材の活用等）。 残りは冬系5のみとなります。生育はやや遅れていましたが、3月後半の高温と雨で一気に生育が進んできました。</p>



① 第3 M ② アスパラガス柵板式高畝栽培試験 ③ 2023/6/2 ④ 周年

アスパラガス		
		<p>アスパラの「柵板式高畝栽培」の実証試験。2023年初夏に定植、2024年春から収穫開始。柵板で隔離したベッドにココバグの中身を入れて養液栽培をします。品種も新しいタイプ3種類を含む、計6種類栽培しています。</p> <p>2年目の収穫が2月中旬から始まっています。収穫初年度と比較すると、品種で状況が変わったものも見られます（初年度よりかなり太い）。3月中旬から立茎を始めています。</p>

① 第8 ② 『持続可能な施設園芸』実証試験 ③ 2024/9/2 ④ 2025/7月末

大玉トマト		
 <p>【3/24 環境状況】 気温 湿度 30 25 20 15 10 5 0 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 時刻</p>		<p>サステナブル・グリーンハウス『持続可能な施設園芸』実証試験として、減農薬・肥料削減・脱炭素を目標とした各種取り組みを行います。 減農薬⇒天敵・防虫ネット・捕虫シート等を組み合わせたIPM 肥料削減⇒排液リサイクルシステムを使った栽培実証 脱炭素⇒暖房の排ガスからCO2を分離して再利用</p> <p>定植は9/2に行いました。品種は「かれん」になります。 CO2は暖房排気ガスから回収した分で400ppm程度を維持、コナジラミはほとんど見かけない状況で、順調です。給液の30%を排液リサイクルでまかなっていますが、EC/pHの大きな崩れは見られず、収量もかなり多い状態が維持できています。</p>

① 第2 ② ブロッコリー品種比較試験 ③ 2024/9月上旬 ④

ブロッコリー		
<p>4作目 8月25日播種 9月20日定植 5作目 8月30日播種 9月25日定植 6作目 9月10日播種 10月5日収穫 7作目 9月20日播種 10月17日定植</p>		<p>現在、5-6作で収穫を行っています。</p> <p>3月に入り、虫も野外で見えるようになったため、消毒を行っています。</p> <p>今シーズン一回目の消毒はヨトウムシを対象に薬剤散布を行いました。</p>



豊かさ実る、タネを。
トヨタネ株式会社

研究農場 TEL (0532) 41-2007
 愛知県豊橋市東高田町371 FAX(0532)41-2015
 URL <https://www.toyotane.co.jp/>
 E-mail info@toyotane.co.jp